

福祉協力校だより

平成23年11月16日発行



福祉のつどい
意見発表



飛騨市健康と福祉のつどい（飛騨市文化交流センター）

福祉協力校とは？

飛騨市社会福祉協議会では、小学校・中学校・高等学校の児童・生徒が、ボランティア活動や身近な福祉活動の中で、社会福祉への理解と関心を高めること、また、社会奉仕や社会連帯の精神を養い、家庭や地域の福祉の心を深めるような教育の実践を行うことを目的として、福祉協力校を指定しています。指定されている10校では、下記のような活動を、当協議会と連携をとりながら実施しています。なお、当協議会では、福祉協力校へ助成金を交付し、活動の支援を行っています。

具体的な活動は？

1 広報・啓発活動

- 講演会や展示会等の開催
- 体験作文、学校新聞等の作成や配布
- 福祉体験発表会
- 標語の募集



2 調査・研究活動

- 児童・生徒に対する福祉・道徳意識調査
- 地域における福祉実態調査



3 体験学習を目的とした実践活動

- 社会福祉施設等への訪問活動、交流活動
- 社会福祉体験活動(手話、点字、車いす体験など)

4 地域一般での訪問・交流体験活動

- 老人ホーム等への慰問活動
- 暑中見舞い、年賀状等の送付
- 給食サービスボランティア活動



【福祉協力校一覧】

飛騨市立山之村小中学校・飛騨市立神岡小学校・飛騨市立神岡中学校
 飛騨市立古川小学校・飛騨市立古川西小学校・飛騨市立古川中学校
 飛騨市立河合小学校・飛騨市立宮川小学校
 岐阜県立吉城高等学校・岐阜県立飛騨神岡高等学校



福祉体験



活動の一環として、夏休みには、一人暮らし高齢者、高齢者世帯への給食サービス、福祉学習の中では、車いす体験、高齢者疑似体験などを実施しています。





11月6日、飛騨市文化交流センターで「飛騨市健康と福祉のつどい」を開催しました。これは、国民健康保険健康世帯の表彰や市内中学生の福祉意見発表・市内小学生の福祉標語の掲示を通して、住民が健康の喜びと、地域福祉の重要性について、関心を深めることを目的として実施しています。

つどいでは、飛騨市と飛騨市社会福祉協議会が主催し、住民約500名が参加されました。福祉意見発表では、中学生が家庭や委員会活動など様々な分野の発表を行い、参加者は生徒のしっかりした考えに心を打たれ、涙を流される方もおられました。講演会では、鎌田寛先生が「命をささえるということ」と題して講演されました。



福祉委員長として

古川中学校三年

千代田翔吾

三月十一日に東日本大震災が起こりました。僕は地震の様子をテレビで見て、津波の被害のすごさ、東北の人たちの大変さに驚きました。そして、僕にも何かできることはないだろうかと考えました。各地で募金活動が始まったのを知り、学校でも募金活動をしてはどうかと思うようになりました。福祉委員会でもユニセフ募金をしていただくを思い出し、委員長に立候補することにしました。

三年生になり、委員長になった僕は、活動目標を、地震にあった人たちみんなが元気になるってもらえるように、古中の生徒が地震にあった人たちにも思いやりを届けられるように、また今年河合中、宮川中と統合して新しく生まれかわった古中生同志でも思いやりを持った行動がとれるように「届けよう古中生の思いやり」にしました。活動とし



も二人の人に送りました。返事はきませんでした。暑中見舞いなど書いたことがない僕は、書くのに苦労しました。でも、大変勉強になり、毎年続けていってほしいと思います。最後に今年だけの活動、東日本大震災募金活動、僕が一番したかった活動です。

五月に入り、三日間、朝昼夕方と一旦三回、教室、ローカ、生徒玄関にたち、全校生徒に呼びかけ、募金活動を始めました。皆の協力のおかげで七万円の募金を集めることができ、飛騨市を通じて被災地に募金しました。本当は、募金と一緒に励ましの手紙も送ろうと考えていましたが実行することができませんでした。ところが、そのころ僕が所属している柔道スポーツ少年団でも募金活動がおこなわれていました。少年団では、募金とともに福島県の野田中学校柔道部の部員に手紙を送ることになっていました。僕も、何を書いていいのかわからないけど「頑張つて」と励ましの手紙を書きました。

た柔道部の生徒さんから返事がきました。「災害にあつて部員が少ない中でも頑張つて練習し県大会に出場することができました。」という内容でした。苦しいこと、悲しいこと、いろいろな困難があつたと思いますがそれを乗り越え頑張つて県大会に出場できてよかつたなと思いました。

恵まれた練習場があり、好きなだけ練習できる環境がある僕は被災地の人に負けないくらい、柔道を頑張ろうと逆にはげまされました。

僕は今年福祉委員長になって、統合し新しくなった古川中学校を、思いやりいっぱい学校にしようと思った活動目標「届けよう古中生の思いやり」のもとで、いろいろな活動をしてきました。しかし、活動の中で僕も励まされたり、勇気ももらったりしたことがたくさんありました。

今年、僕は義務教育を卒業しますが、自分の夢に向かって苦しいことや困難があまっても乗り越えられる強さや、周りの人への思いやりを忘れず頑張っていきたいと思います。

返事がくるなんて思っておりませんが、七月、送っ



夢にむかつて

古川中学校三年

春見 理奈

私の将来の夢は、福祉関係の仕事です。私の母も看護師の仕事をしています。夜勤の時は疲れた顔をしていてとても大変そうだけど、仕事の話をしている時は表情も明るく実際に仕事をしている姿もてきぱきと動いていてかっこよく誇りを持って仕事をしていることが伝わってきます。いつからか、私もあんな風になりたいと思うようになりました。

二年生のときの職場体験で私は福祉施設の寿楽苑へ訪問させていただきました。そこで働いている方々は、耳の遠い人には耳のそばで大きな声で話しかける、車いすの人には目線を合わせて話すなどの気遣いを忘れずに仕事をしてみえました。私も頑張ろうと思いましたが、大きな声で話すのは恥ずかしいし、実際にお年寄りにどうやって話しかければいいのかわからず戸惑ってしまいました。

そんな私の姿を見て施設の方は、「立っているだけでは何もできないし、何も伝わらないよ。福祉の仕事に就きたいのなら利用者の方への心遣いは忘れてはいけませんよ。」と声をかけて下さいました。私は簡単に人を助けたいからとかかっこいいからと言っていただけで、そんな薄っぺらい気持ちではこの仕事は務まらないことにそのとき初めて気づきました。

その夜、母にその話をしたら、

「あたりまえだよ。私も仕事をしている時は患者さんの話を聞いたり、私からも話しかけたりして仕事をしているよ。コミュニケーションはとって大事だよ。」

といわれました。二日目は利用者の方となるべく話ができるように頑張りました。そして、笑顔で接することを心がけました。午後からはホールで利用者の方とボーリングやゲートボールなどをしました。私はボーリングのピンを立てたりするお手伝いをしました。楽しそうにゲームをされる姿をみて、私もうれしくなりました。その後車いすを押して移動している時にお礼を言ってもらえてとてもうれしい気持ちになりました。

また、絵手紙教室のお手伝いもさせていただきました。教室でも使った机やイス、絵の具の準備をしました。また、その教室の参加者の方の移動のお手伝いもしました。そのとき、絵手紙に書く文字を書くように頼まれました。私は習字を習っていたので、少しだけ字には自信がありました。なので、利用者の方にも、絵手紙の先

生にも、「字、上手だね。次の人もよろしくね。」と言われ、本当にうれしかったです。

私はこの体験を通して二つのことについて知ることができました。

一つ目は、どんな時も思いやり、優しい心を持って接することを忘れないということです。

二つ目は、仕事は辛くて大変です。でも、それだけでなく患者さんや利用者さんと話す楽しさや、ありがとうと言ってもらえるうれしさがあること、やりがいがあるという

ことです。

私はいろんなことを学ぶことができました。看護師になるためには資格を取らなければならないし、難しい勉強もしたいといけません。それだけでなく、日常生活の中で、いろいろな勉強をして人とのコミュニケーションがうまく取れるようにすることや、人の気持ちを考えることなども学んでいきたいと思っています。どんな特技が役に立つかわからないので広く色々なことに興味を持って学んで行きたいと思っています。

父



山之村中学校二年

下林 史弥

います。

山之村では、夏に涼しいという立地条件を生かして、二十年余り前から、ほうれん草を生産しています。今では、「山之村のほうれん草」と言えば、葉や茎も太く、味も良いことで有名となりました。それまでは、祖父や祖母の代から、大変な苦労があったと聞いて

僕の家でも、そのほうれん草を生産し、出荷しています。今まで何度か、家族の手伝いで収穫や積み出しをしたことがあります。ほうれん草は、一年に4、5回も連作するので、変化する天候や土地の様子を考えながら生産していくこと



は、とても難しいことです。だから、僕は、ほうれん草だけでなく、トウモロコシ、トマト、茄子などの野菜や、スイカ、メロン、苺、梨などの果物も作れば、収穫の時期もずれて収入も増やせるのではないかと思っていました。

そこで、父に、「どうしてほうれん草の他にも違う野菜や果物を作らないの？。別の果物を作った方が、自分の家でも食べることもできるし、色んな種類の栄養も採ることができるよ。」と話しました。すると、父は、「山之村のほうれん草は、山之村のみんなで作って出荷してるんや。そうすると、出荷までの道筋というものができてな、よう売れるし、『山之村のほうれん草』

いうて有名になるんや」と話してくれました。

なるほど。父が、毎日、早朝より夜中まで仕事をしているのは、大量のほうれん草を作るためであり、これだけの仕事をしなくてはいけないのだとわかったのです。

父は、その為に、毎日3、4時間しか眠っていません。僕は、父の体も心配だったので、どうしてそこまでして働くのか聞いてみました。すると、「家族の為やき。一時間でも二時間でも多く仕事をして稼げば、それが家族の為になるからな。」と。絶対に大変なはずなのに、眠いとか忙しい等の弱音は、一言も吐いたことがありません。僕たち家族の為にこんなに一生懸命働いてくれているのです。

この父の言葉を聞いてから、僕は、家族のことを今まで以上に考えるようになりました。そこで、僕も家族の一員として、何かしたいと思い、休日には、父の仕事を自分から手伝うようにしました。

ほうれん草の収穫から袋詰め、箱詰めなど、ほうれん草にかかわる仕事はたくさんあるので、

大変でした。仕事が一段落して、遅い夕食をとり、これで終わったと休んでいると、父はまた、ほうれん草の小屋に行くのです。その後も、ほうれん草を商品化する仕事を行っているのです。

遅いときには、夜中の1時、2時にもなります。僕が手伝おうとすると、「今、お前には他にやることもあるだろう。今は、父さんにとつて、ほうれん草の仕事が一番大事なことでやから、こうして、遅くまで頑張るんや。手伝わってくれるのは嬉しいけど、史弥にとつて、今一番大事なことを力いっぱいやってくれた方が、父さん、母さんは、嬉しいんやぞ。」そういう父の言葉を聞いて、はっとしました。

僕には二人の姉がいます。上の姉は、今、専門学生で、エステティシャンになるための勉強を一生懸命頑張っています。エステティシャンになったら、一番に家族の健康な体づくりをサポートしてあげたいと話しています。

下の姉は、高校一年生で、調理師になるために勉強と部活動を一杯頑張っています。

この姉も、家族においしい料理をふるまいたいと話しています。祖母は、今も、両親と同じように、朝早くから夜遅くまで一生懸命働いています。このように、家族一人ひとりが、今の自分にできることを一生懸命頑張っているのです。

家族の為に考えながら暮らしているんだと気づきました。父の作っているほうれん草は、家族を思いやって作られている物です。僕は、将来、父のそんなほうれん草への思いを受け継いでいきます。沢山の人たちに、山之村のほうれん草を味わってもらいたいと思います。

心の中ではわかってるよね

神岡中学校三年

岡田 華苗

私には、九十八歳のひいじいちゃんがあります。山之村に住んでいるひいじいちゃんには、八十代の頃とても元気でした。朝は六時に起き、日中は外で田畑の仕事をしていました。

ところが、九十歳になった頃から、自分のやった行動を忘れてしまう症状が出てきました。お風呂に入ったのに、数時間たつと、また入ろうとしてしまつたり、ご飯を食べたのに忘れて、おばあちゃんに、「ご飯は？」と何度も聞いて

たりしていました。手足も不自由になり、トイレの時にも誰かの手を借りるなど身のまわりのことも一人ではできなくなってきました。

そんなとき、私の家族は何度もひいじいちゃんに声をかけていました。「さつきお風呂に入つたよ。」と優しく、でも時には激しく、「部屋で休んどいて。」と声をかけることもありました。それを見て私は、またかという気持ちもありましたが、「自分は何



も手助けできんな。」という思いになりました。家族みんなが、心のどこかでつらい思いがあつたと思います。でも、途中でひいじいちゃんを見放すことは一度もありませんでした。

家の中には、いくつかの工夫をしました。廊下やトイレには手すりを付けたり、お風呂にも一人で入らないように、わかりにくい場所に外側からの鍵を付けたりました。家族はいつも弱音を吐かず、ひいじいちゃんのことを第一に考えていました。でも、同居していたひいじいちゃんとはあちやん二人とも働きに出ていたため、手助けが大変になり、手に負えなくなってきました。そこで、ひいじいちゃんを

施設に預かってもらうことにしました。でも、地元のたんぼぼ苑は入居希望者が多くて部屋の空き待ちとなり、町外の施設で生活することになりました。このことから、現在の高齢化社会に伴い施設の入居希望が増えているのに、施設のベット数は必要数を満たしていないことを知りました。

そのときは施設の数をもっと増やせばいいのと思いましたが、そう簡単なことではありません。建設場所の確保から建設費用、そこで働く大勢の人が必要となります。なによりも、完成までに時間がかかります。

そこで今、私にできることは何だろうと考えてみました。以前、ひいばあちゃんがたんぼぼ苑でお世話になってい

たとき、たんぼぼ苑を訪れたら、イベントをやっていました。曲に合わせて体操をしたり、顔の運動をしたりして、みんなが笑顔でした。たんぼぼ苑の方に、「二緒ありませんか。」と誘われました。ひいばあちやんと一緒に何かやるのは久しぶりで、自然に心が温かくなりました。そのあと、ひい

ばあちゃんは、「楽しかった。また来てな。」と言いました。私たちが会いに行くだけでもとても喜んでくれます。私に、今すぐできること。それは、積極的に福祉のイベントやボランティア活動に参加すること。そして現在、たんぼぼ苑に入所できたひいじいちゃんに会いに行くことだと思います。

入所と同時に、ひいじいちゃんとは、私たちひ孫のことだけでなく、自分の子どもであるひいじいちゃんのことまでも忘れてしまいました。会いに行っても、みんなのことがわかりません。また最近では寝ていることが多くなり、会いに行っても顔を見るだけで帰ってくることもあります。

でも、話しかけると笑顔で語ってくれたひいじいちゃんは、私たち家族のことを忘れていないと思います。心の中に、たくさん思い出として残っていると思います。

稲かりと一緒にやったこと、お酒をついであげたこと、私のことひいじいちゃん、本当はわかっているよね。

福祉標語優秀作品

「だれかのために」

そう想う心を 大切に
古川小学校六年 中井 奏

ぼくにでも

だれかの役に 立てるはず
古川西小学校五年 中屋龍雅

おはようの

笑顔が いっぱい ハイタッチ
河合小学校五年 中屋菜奈

「どうしたの」

その一言で 一安心
宮川小学校五年 中谷慧人

笑顔から

うまれてくるのは また笑顔
神岡小学校五年 下垣万由子

「おはよう」

一日を元気にさせる 応援歌
山之村小学校六年 沖田裕太



出前講座



車いす体験や高齢者疑似体験、発達障がいに関する疑似体験、福祉学習に必要なものを貸出したり、職員が出向いてアドバイスします。授業やクラブ活動、先生や企業での学習会等、お気軽にご相談ください。



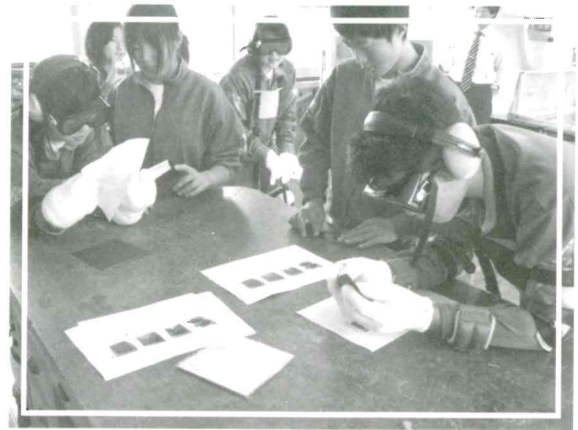
車いす体験

車いすの種類や機能、操作の仕方を説明します。

また、車いす利用者の生活での不便な点の発見、相手を思いやり生活する大切さ、介助方法を学びます。

高齢者疑似体験

耳栓や特殊眼鏡、サポーターなどのグッズをつけることによって、一挙に85歳くらいの高齢になったときの状態を疑似的に体験できます。高齢者の心を推察する、介助者の役割を理解できます。



発達障がい疑似体験

学校生活や家庭の中で、障がいをもったお子さん達が、感覚・視覚・聴覚など、どのような感覚で、過ごしているかを実際に体験し、学ぶことができます。



お問合せ

飛騨市社会福祉協議会
TEL 0577-73-3214